

別表第1 評価領域及び行動プロセスに関する着眼点

※「着眼点」は、職務を遂行する上で通常必要とされる水準を例示したものである。

主幹教諭（実習教諭（高等学校））

評価領域		着眼点
I 学校の組織的な運営		<ul style="list-style-type: none"> ・校長、副校長及び教頭の指示を受け、その職務を整理し、校長等が判断・処理できるようとりまとめている。 ・企画委員会等の構成員として学校運営に積極的に参画している。 ・学校運営が組織的、機動的になされるよう、教職員の共通理解の下、積極的に分掌間の調整等に努めている。
II 実習等	指導計画の作成・実施・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な実習に関する指導計画を作成している。 ・生徒の興味・関心に応じて、担当教諭と連携しながら、教材・教具等の工夫を進めている。 ・実習の事前準備や事後処理が適切に行われ、指導計画に沿った円滑な授業の進行に貢献している。 ・生徒の学習意欲を向上させるため、担当教諭と連携し、実習方法等の工夫・改善に努めている。
	施設・設備の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で快適な環境で授業を行えるよう、実習で使用する設備、教材等の点検・整備・管理に努めている。 ・担当教諭と協力して、実習室等の安全管理を確実にしている。 ・実習後、施設・設備の適切な活用等の問題点を洗い出し、改善するよう努めている。
III 担当する校務等		<ul style="list-style-type: none"> ・担当する校務の課題を的確に認識し、改善に向けて組織的、計画的に取り組んでいる。 ・教職員とのコミュニケーションを図り、適切に指導・助言している。 ・開かれた学校づくりに意欲的に取り組んでいる。 ・教育公務員として、高い自覚を持ち、規律の遵守や公正を重んじた行動をとっている。
チームワーク行動		<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に円滑なコミュニケーションを取りながら、キャリア段階ごとに期待される行動を行っている。